

秋の甌島といえど？

甌島の魅力は、地元の方が一番知っているだろうというところで、住んでいる方から、甌島の魅力を聞きました！



地域おこし協力隊
澤 未恵さん

甌島に移住して1年経ちますが、信頼できる人が多く、心地の良い場所です。「お母さん、朝の匂いがあるね」と娘が言うほど、空気が澄み、緑の多い秋の甌島。

西山地区コミュニティ
主事 西 孝明さん

秋の甌島は、天気が良いと空が高く、晴れ渡っていて、ドライブには最適。青い海・空、白い雲、緑の島の景色のコントラストが素晴らしい場所です。甌大橋ができたことで上甌から車で走るとき、鹿島から下甌に行くときの峠などは東と西の海が見渡せて絶景です。ずっと見ていたい景色があちこちに広がっています。



こしきの宿 石原荘
石原功一さん

来島される方に人気があるのは、「魚介類」。秋の魚は脂がのっておいしいですが、秋から冬にかけては魚種も増え、メジナとスジアラも釣ることができるので、釣りもぜひ楽しんでほしいです。

また、来てくださる方には、島のみなど触れ合ってもらいたい、甌島ならではの温かさを感じてもらいたいです。

島に来る方からいい意味で「このままでいてほしい」といわれる全体の雰囲気や手つかずの自然をぜひ味わってもらえればと思います。



秋は涼しく、トレッキングやツーリング、マラソンなどに最適な季節です。地域おこし協力隊の活動として、9月にはトレッキングツアーも企画しましたが、甌島の方が持っている良いところや大自然の魅力をもっと伝えられるよう、取り組みたいと思っています。皆さんもぜひ、甌島の魅力を感じに来てください。

そして、甌島に来たらぜひ島の人たちと話してほしい。多くの方がいろんなことを教えてくれるので、面白い話が聞けるかもしれませんね。

晩秋(12月11日)には、助八古道を歩くイベントがあるのでぜひお越しください。

ぜひ甌島の自然と
人の魅力を感じて

今回甌島を取材していると、みんな口をそろえて言うのが、「人の温かさ」と「すてきな自然」。

実際に取材に行っても、甌島の方々の優しさや笑顔に触れることができ、自然と温かい気持ちになりました。

夏のイメージが強い甌島ですが、秋も魅力がいっぱい。

過ごしやすくなってきたこの時期に、甌島の魅力を感じに出掛けませんか？

皆さんが知りたいことや紹介したいことなどがありましたら、情報をお寄せください。
問合せ／本庁秘書広報課
企画総務・広聴広報G
(内線4122)

人のとなりに

中尾 幸一郎さん

「人のとなりに」とは…

文字通り、その人の隣にいて、思いに寄り添うことや人柄を表す言葉「人となり」をイメージしたコナニで、人物や活動の紹介だけでなく、その人の思いにスポットを当てることを目的としています。



甌島観光の大きな楽しみの一つ「観光船かこのこ」に、就航時から携わっている中尾さん。
今回は、日々変化する島の環境に対応しながら、乗客に安全に観光を楽しんでもらうために奮闘する、船長・運行管理者の思いに寄り添います。

観光船の就航から

平成23年に就航した「観光船かこのこ」。当時から上甌地域に住んでいた中尾さんは、知人を通じて船長・船員募集の情報を知り応募、就航後の最初の船長に就任しました。

普段の中尾さんは、「運行管理者」として、主に事務所での緊急時の連絡調整役を務め、運行中の安全を見守っていますが、船長として観光船の操舵や、予約受付などの事務作業もこなしています。また、「合同会社甌幸葉海業」の代表取締役として、金属のリサイクル業や災害時の土砂撤去など、仕事を通じた地域貢献にも取り組んでいます。

安全に楽しんでもらうために

仕事のやりがいを尋ねたところ、リピーターが増えるのはもちろんですが、その中でも「船に乗りに来たのではなく、中尾さんに会いに来た」と何度も訪れてくれる方が増えることなだそう。覚えていてる中で一番多い人は12回来てくれました。友人・知人を連れて来てくれるだけでなく、乗船時に聞いたことを自然に覚え、友人・知人らにガイドをしてあげることもあります」とうれしそうに話してくれました。

「何もないこと」を楽しむ
地元を地元で支えるために

甌島の魅力は「良い意味で何もないことだ」と語る中尾さん。今の季節の楽しみ方を尋ねたところ、暑くも寒くもない、快適に過ごせる今の時期に甌大橋



「楽しみにしてくれるお客さまのことを考えると、なるべく船を出したいという思いもありますが、乗客の安全のために『やめる勇気、引き返す勇気』を持ち、心を鬼にして運行中止の判断をしています。その代わり、乗客には少しでも早く予定を変更できるように来島前に連絡することを心掛けています」そう話す中尾さんの表情からは、乗客の安全とおもてなしの心の間で揺れる強い葛藤が感じられました。

「都会に比べればお店も少なく、夜になれば真っ暗で、適度に「何もない」という、普段できない非日常のひとときを楽しんで欲しい」と教えてくれました。また、地元をさらに盛り上げるために、地元の方々の力も重要と考えているそうで、「橋がつながっても、住んでいる地域以外へ遊びに行くことは少なく、今でもあまり良く知らないのではと感じます。観光船にも島外の家族などが訪れたときに乗るくらいで、地元の方自身が乗船いただく機会も少ないように思います。地元を地元で支えるためにも、島内の方にはぜひ、島内のお店や観光船をさらに利用してもらい、島の魅力を改めて感じて欲しいと思います」

そう話す中尾さんは、乗客の安全と笑顔のために今日も舵をとりまします。